

社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま

ほっと HOT ほっと hot 通信

ホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォン をご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

12月号 Vol.335

令和2年（2020年）12月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下藏持字中沢22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室（江坂 宛）まで
r-esaka@kashima.jp

卷頭特集

1
-
2『本誌「卷頭特集」から
かしま病院の1年を振り返る』

3

経腸栄養関連製品の
新規格製品への切り替えのご案内

4

コラム ひんがら目（162）
『自粛と GoTo の狭間で』
呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ！

リハビリPOST

クリスマスイルミネーションを設置しました
かしま荘通信

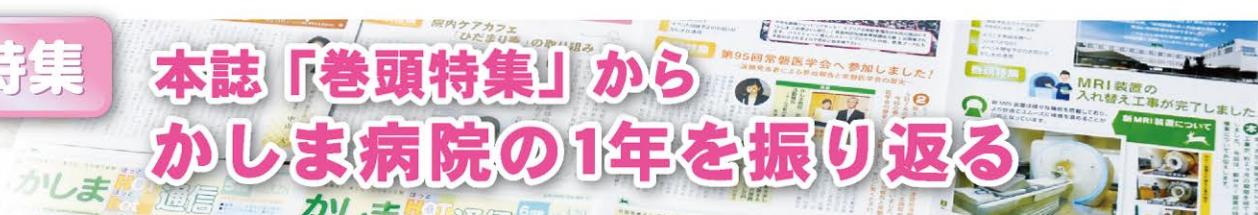
接遇研修 実施報告

あいさつと電話対応
～コロナ禍での接遇を含めた研修会～

11月10日(火)と17日(火)に、当法人のコミュニティホールで、新人職員等を対象に「あいさつと電話対応～コロナ禍での接遇を含めた研修会～」を行いました。マスク着用で表情がわかりにくいことやコロナ禍で面会制限中のためご家族との電話対応の機会が増えたことが実施の理由です。前半ではあいさつと電話対応のポイントを学び、後半ではペアを組んで電話対応の実践練習を行いました。

卷頭特集

本誌「卷頭特集」から かしま病院の1年を振り返る



1月は、毎年恒例となつていい年頭のご挨拶でした。理事長院長、看護部長の3名に前年の振り返りや、今年の展望などを含めた挨拶文を掲載しています。来月発行の令和3年1月号にも年頭のご挨拶を掲載予定ですが、今回はもう少し多くのスタッフの挨拶文を掲載するかもしれません。お楽しみに。

1月号
令和2年養生会
年頭のご挨拶

HOT hot Tushin
12月に入り、今年も残りわずかとなりました。皆さん、どうでしたでしょうか？
かしまHOT hot 通信では、毎月ピックアップした情報を巻頭特集として1、2ページ目に掲載しています。今回は年の締めくくりとして、今年1月から11月までの巻頭特集を振り返りながら、かしま病院の一年をまとめました。

Playback2020

令和2年2月8日に開催された常磐医学会は、医師や医療専門職がそれぞれの活動や研究結果を発表する、70年余りの歴史がある学会です。当院からは計7名が演者として発表しました。当院認定看護師チームは、最優秀賞である常磐医学会会长賞の受賞をしました。学会では、専門職の特長を発揮した事例はもちろんのこと、幅広い職種に有益な情報もたくさんありました。このような学会が、いわき市全体の医療の発展や質の向上につながっているのだと思います。

3月号
第95回常磐医学会へ
参加しました！

令和1年7月から開店した院内ケアカフェ「ひだまり庵」の特集記事です。ひだまり庵は、「患者さんが笑顔で過ごせる空間づくり」をコンセプトにした院内デイケアです。今年は感染対策のため休止していましたが、現在は規模を縮小して再開しています。今後の開催の形態や規模についても、状況を勘案しつつ患者さんに満足していただけるよう体制を検討しています。

2月号
院内ケアカフェ
「ひだまり庵」の取り組み

4 月号
April
**MRI装置の
入れ替え工事が
完了しました。**

令和2年3月7日に当院のMR-I入れ替え工事が完了しました。旧MR-I装置の解体場面、新MR-I装置の組み立て場面、設置後の全体像の写真など、普段なかなか見ることができない部分を掲載しました。新MR-I装置は、閉塞感の少なさや検査時の静音性が向上しています。



もし当院でMR-I検査をする機会があれば、その性能を実感してみてください。
（中略）
令和2年4月1日より入職された、中山晴夫先生と佐々木聰子先生の2名の医師紹介の特集記事です。福島県の人口10万人あたりの医師数は47都道府県中41位であり、いわき市は福島県の平均値をさらに下回っています。そんな中で2名の医師が入職となり、第一線で診療にあたっています。当院では、医療提供体制の充実のため医師求人専門サイトを立ち上げました。サイト内では、病院の様子をお伝えするブログを随時更新しています。（下記QRコードよりご覧いただけます。）

5 月号
May
新任医師紹介
中山晴夫先生、
佐々木聰子先生
(後期研修医)

7 月号
July
**かしま病院の
給食ができるまで**
くじ
米養課の紹介



当院の給食は、栄養課が中心となり、メニュー作成、調理、配食、食器洗浄まで全て院内で完結しています。一連の流れはしっかりとシステム化されており、安心して給食食べることができます。季節の節々にある行事食にも力が入っており、患者さんからも好評です。

ICTとは、「感染対策チーム」のことです。感染対策として、やはり今年は新型コロナウイルスが思い浮かびますね。その対策の実働チームとして活動する4名のスタッフにインタビューをした記事です。感染対策の立案と職員、患者さんへの周知することや、感染症全般の多くの情報の中から正確なものを抽出して伝えることも重要な活動のです。12月に入りインフルエンザの流行も懸念される時期になつており、現在も感染対策の中心となつて活動しています。

6 月号
June
**かしま病院感染対策チーム
ICTについて**

9 月号
September
**システム管理課の
紹介**

急速に進むオンライン環境整備への対応に欠かせないシステム管理課の特集記事です。今年は院内のネットワーク環境を整備し、オンラインで会議や研修ができる体制を構築するのに大活躍でした。いまや病院でも欠かすことができないIT系の職種ですが、なんと2名体制で病院全体のシステムを管理しています。今後も進んでいくデジタル化にあたって、システム管理課はさらに重要になっていくと思います。



診療体制の変更や面会制限の実施など、感染対策のための変更の一歩をまとめました。ICTによる情報収集や、変更内容の院内外への周知によって、比較的のスムーズに変更できましたかと思います。入院患者さんへの面会禁止は、当記事作成中の11月20日現在も継続しております。皆様には大変ご不便をおかけしております。面会等の対応が変更になる場合、ホームページにて随時お知らせします。

8 月号
August
**新型コロナウイルス
に係る体制変更について**

11 月号
November
病院で行う総合診療
歩みと病院総合医

先月は、初代理事長の総合診療の理念を基に診療にあたつている、当院の病院総合医を中心とした特集記事でした。



いわき市のけんしんの検査項目、料金、受診方法等をまとめた特集記事です。けんしんは多くの検査項目があり、年齢や性別、検査歴等によって受診できる項目が異なります。病気の予防や早期発見ができるれば、いわゆる健康寿命を延ばすことに繋がります。お近くの医療機関で気軽にんしんを受けられます。お近くの医療機関でありますので、いつでもお問い合わせします。



10 月号
October
**健康診断を受けよう
いわき市の各種成人
健康診査の案内**

▶ かしまHOT hot 通信の
バックナンバーは、
ホームページから。

▶ 医師求人専門サイト
ブログ随時更新中、
医師以外の方への
情報も掲載！

みてくださいね。
来年も、かしま病院
をもっと知ってもらえて
るように情報をお伝え
していきますので、
HOT hot 通信をよ
ろしくお願いします。
Playback 2020

**HOT hot Tushin
卷** 頭特集から、かしま病院なのか、どんな取り組みをしているのか、少しでも伝われば幸いです。過去に発行したHOT hot 通信(バックナンバー)は当院ホームページに掲載してありますので、いつでもご覧いただけます。卷頭特集だけでなく、ひんがら目など恒例のコチラもおすすめなので、気になる記事がしてみてはいかがでしょうか。

経腸栄養関連製品の新規格製品への切り替えのご案内

かしま病院では
12月から
順次切り替えます。

■誤接続 防止のために

今まで医療の現場で使用する製品は、分野（輸液、経腸栄養等）を問わず同じコネクタの形状でありました。そのため、経腸栄養ラインに投与すべき栄養剤を誤って点滴（静注）に注入される等の誤接続の事故が問題となっていました。そこで、誤接続を防止する目的で、分野別に形状の異なるコネクタの国際規格（ISO80369）が制定されました。

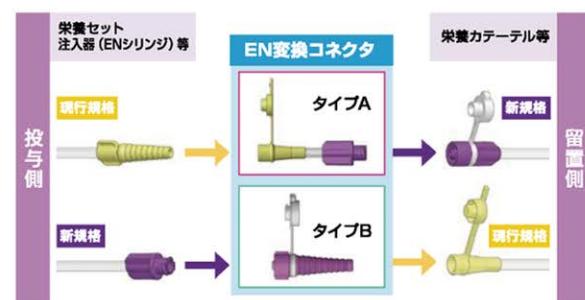
新規格製品のコネクタ部分は、違う分野の製品とは太さや形状が違うため接続することができません。材質は柔らかいもの➡️硬いものに変更になり、接続方法も差し込むタイプ➡️回して接続するロックタイプとなります。色は黄色➡️紫色に変更になります。

新規格製品は、誤接続防止以外にも・・・

- ① ロックタイプになることで加圧投与時や不意に外れてしまう恐れがなくなる。
- ② 國際規格であるため安定供給が期待できる。

このように、現行規格製品から新規格製品になることで安全に安心して使用することができます。

また、経腸栄養分野の製品（胃ろう等）は、数ヶ月に1回交換を行う製品であるため、全ての医療機関、施設等において、新規格製品への切り替えが終了するまでに一定期間を要するため、現行規格製品と新規格製品を接続するための変換コネクタが必要となります。（図1）



【図1：現行規格製品と新規格製品を接続できるEN変換コネクタ（JMS社製）】

連携施設間で新規格製品への移行が完了するまでの間は、施設間で新旧どちらの製品を使用しているのか確認することが必要です。当院では、関連する医療機関、介護施設と連携し、安全に配慮しながら切り替えを進めていきます。宜しくお願いいたします。



医療機器安全管理責任者 根本 浩

菅義偉総理はバッハ会長に、「来年の東京オリンピックをコロナに打ち勝った証にする」旨の発言をしました。安倍前首相も五輪招致の際、「福島は復興した」と高言しました。ご両人とも、何の根拠もない巧言をよく言えたものです。

菅総理の、日本学術会議の任命拒否問題での迷走した言証。肝心なところでは、「人権に關することですから発言を控えます」と、木で鼻を括った無愛想な態度。

全国的にコロナ感染の第三波が広がっています。専門家からの警告が出ているにも拘わらず、「専門家はGOTOキャンペーンを止めろとは言つていないと承知している」との発言。責任を専門家になすりつけ

自肃がすぐれないとの理由で総理の座を降りた筈の安倍晋三氏でしたが、国際オリンピック委員会のトーマス・バッハ会長が来日した際に、嬉々として金章を受けている姿をテレビで眺めて驚きました。元気そうではありませんか。意地で掛けていたアーノマスクから開放されたのか、バッハ会長とともに白い大きなマスクで顔半分が覆われていました。

安倍氏はポストコロナ議員連盟の会長になつたそうです。翌日の週刊朝日の広告に「スガノミクス崩壊、安倍まさかの3度目」を見ると及んで、この国はどうなっているんだろう、と絶望感でうなだれました。まさか・・・。



自肃とは「不要不急の外出をしないこと」。GOTOとは「不要でも外出を奨励すること」。真逆の方針が並行している異常事態。自肃とGOTOとの間には、「個人の自由に任せる」という中間状態がある筈ですが、個人を信用していないのか、国民党は左右に腕を引っ張られて全く自由が利かない状態です。二進も三進も行かなくなつた時には、立ち止まつて熟考すべきでしょう。平常心こそが肝要です。

緊急事態宣言をすれば社会が破綻する事は目に見えています。確かに感染は一時的に縮小しました。しかし、感染源が他所から入つて來ると振出しです。自粛を解除すれば第二波が来る事は想定内です。ましてや、GOTOを放てば増幅されます。第二波、第三波は想定内でしょう。とにかく、GOTOは、止めべきでしょ。

現在では感染対策の有効性の評価基準が新規感染者数にあるようですが、無症状者などが多数いる現状では、評価基準を変更すべきでしょ。入院治療が必要な新規患者数とか、普通生活ができる人の死亡数、などを数字で示して欲しいものです。

ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医療成への挑戦～

医療現場では患者さん達が抱える多くの苦悩に遭遇します。患者さんを人として理解することを目指す総合診療医にとって、これらの苦悩は、丁寧に向き合うべき大切な健康問題です。

苦悩とは、病気そのもの、あるいは病気が引き起こす症状のみならず、それによって失われた人としての自立性や完全性の喪失がもたらす苦しみであり、生きがいを失った苦悩、罹患の不条理さへの苦悩、将来の不確実性への苦悩などがあります。苦悩は、個々の患者さんの事情により異なり、検査で異常が見つかったり、一定の治療法が存在するわけでもないので、通常の診断・治療のプロセスでの解決は困難です。

世界の家庭医療の父 Ian R. McWhinney は「医師の人生において中心となる仕事は、病気を理解することと人間を理解することです。病気になっている人を理解することなく病気を十分に理解することはできないので、この 2つの仕事は分けることができません」と語っています。患者さんの苦悩に対応する際、その苦悩を受け止め、病気が患者

第130回

苦悩と希望

診療部 石井 敦



さんにとって持つ意味を理解し、患者さんの傍らに寄り添い、患者さんが希望を見出すための支援を行う精神面のアプローチが重要です。

総合診療医は、患者さんとの対話の中で見えてきた患者さんの人となりや生活状況、人生観などをふまえて、患者さんが、生きる希望、未来への希望、苦悩を通じて深まつた自己理解や死生観を通じ、自分の人生に対して新たな意味を見出す希望を抱くことを支援できるように努めます。そして、過去の苦しみからも逃れられず、将来に何も期待できず、どうしても希望を抱くことが難しい状況であっても、簡単には諦めず、一緒にきれいな景色を観たり、くだらない冗談を言ったり、法律に触れない範囲で滑稽な格好をしてみたり、せめてその瞬間だけでも笑って、小さな希望を見つけることができるようにお手伝いを続けていきたいと考えています。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第 117 回

退院に向けての取り組み

まずは入院時にチームでの話し合いをもち、おおよその経過、入院期間、退院先などを検討します。その後はチームでの話し合いを毎月 1 回行い、リハビリの進行状況を検討に加えて、入院時の話し合いの内容を修正しながら退院状況を探っていきます。退院される患者様の中には後遺症を残したまま退院される方も多く、そうなるとご家族の負担も少なくなく、その点には十分に留意をしてチームでの話し合いを進めています。

今回はリハビリ目的に入院された患者様の退院に向けた取り組みや流れについて説明していきます。当院ではリハビリ目的に入院された患者様に対して、医師、看護師、ソーシャルワーカー、リハビリスタッフで一つのチームを組み、患者様の入院後の治療計画を立てます。

リハビリが進み退院時期が近くなると医療チームは必要に応じて退院調整を行っていきます。退院調整とはご家族への自宅での介助法を指導することや家屋の環境調整を行うこと、介護サービスをどうするかということを決めていくことですが、自宅以外の施設入所を希望される方に対しては施設(場所、料金、リハビリの有無など)の提案をして、施設入所の手続きをしていきます。

退院後に介護保険サービスを利用される患者様に対してはケアマネージャーと連携しデイサービスや通所リハビリ、訪問リハビリ、ホームヘルパー等の利用をご家族と患者様本人と共に検討していきます。当院では通所リハビリテーション、訪問介護リハビリテーションを有しており病院から自宅へのスムーズな支援体制を図れ、医療・介護・福祉の領域から支援できるシステムが整っております。今後も患者様が安全に生活できるよう医療スタッフが連携し支援していきます。



理学療法士 藤森 夕歌

かしま荘通信

面会全面禁止のお知らせ (12月1日～)



当法人では現在、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、面会に関しては人数や時間を使って予約制で実施しておりましたが、首都圏での新型コロナウイルス感染症の拡大状況ならびに市内での発生を踏まえ、面会の全面禁止を実施させていただくこととなりました。ご家族様には大変ご心配をおかけいたしましたがご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。利用者様のご様子など気になることがあればお気軽にご連絡ください。 社会福祉法人養生会 かしま荘 0246-58-8271

Xmas イルミネーションを設置しました!

期間：令和2年 12月1日火～25日金
時間：17時00分～20時00分



病院玄関前のロータリーにおいて、12月中の期間限定でイルミネーションを点灯しています。

患者さんやご家族の方にクリスマス気分を楽しんで癒しになつただけたら幸いです。